かかわりを通して思いやりの心を育てる

～就学前から始まる学びのつながりを意識して～

府中市立四谷小学校
校長　島田　文江

１　主題設定の理由

本校は 20 以上の保育園や幼稚園から新入生を迎えている。就学前の教育を入学時に生かしきれないことが影響し、いじめや不登校等の問題行動が発生した場合に長引く要因となることがある。幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿として示される「自立心」「協働性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会性」「言葉による伝え合い」等は、入学後も必要とされる資質・能力である。特に、「言葉による伝え合い」は、意図的な指導の下での日常的な積み重ねが欠かせない。

通常は、5 歳から小学 1 年生までとする架け橋期の教育の期間を延長し、義務教育の前・中部分を占める小学校の 6 年間を含めて、繰り返し実践したいと考えた。

２　研究のねらい

就学前の学びの芽を入学時に 0 にせず、言語活動を介して、保育園や幼稚園の願いや思いを含めてつなぎ、小学校の 6 年間をかけて人格の完成に近付ける。

３　研究の内容

保幼小の架け橋期の重要ポイントである、「つなぐ・高める・支える」活動を校内研究として取り上げ、全校体制で充実を図る。地域の教育機関の連携を通して地域や保護者を巻き込み地域の子供を育成するという意識を醸成する。

（１）つなぐ（発達の段階を見通す）

昨年度より、保幼小の教員が、各園・小学校の文化的・体育的な行事を相互に参観している。体験を通して、発達の段階に応じた行事の在り方を見直す機会としている。

今年度は、夏季休業中に、本校の全教員が地域の８つの保育園や幼稚園の保育を参観した。座学では分からないことを、見て感じることを重視した。昨年度、保育園から示された「架け橋期のカリキュラムマネジメント【国語】」＊[1]を基に、2 学期以降の校内研究授業で活用することとした。この参観では、体験を通して地域や保護者の願いを体感することも、ねらいの一つとした。

（２）高める（幼児教育と小学校教育を結ぶ／各学年間の教育を結ぶ）

昨年度から校内研究授業と授業後の協議会にも各園の教員に参加いただいた。今も継続している。今年度は、校内研究のテーマを保幼小の連携を基に、「かかわりを通して思いやりの心を育てる」としたため、全学年・全学級がスタートカリキュラムに取り組んだ。

入学・進級時の１～2 か月間を、誰もが安心・安全であると感じる“学年の入り口”になるように保障した。

２学期（9 月～11 月）に、児童の“言葉による伝え合い”＝かかわる力を高めるねらいの下、校内研究授業として低学年の特別活動、中学年の総合的な学習の時間、高学年の道徳科の授業を、地域の保育園や幼稚園に公開する。12 月には、保育園と協働で１年生の国語科の研究授業を構成し、子供の学びに深く関与することを、市内の保幼小の関係者に公開する予定である。

（３）支える（特別な配慮を必要とする子供や家庭を支援する）

画像１．教員交流会

今年度の５月、本校で、地域の８つの保育園と幼稚園の園長及び教員と、府中市から統括指導主事をお招きして総計 25 名で交流会をもった。

本校の４名の１年生担任を中心に音楽専科や養護の教員も参加し、今年度のスタートカリキュラムの報告、外国語やプログラミング等、新しくて馴染みの薄い小学校の新たな学習内容の説明を行った。予め交流会で話題にすることを決め、教員同士の顔合わせ・入学後の子供の様子の情報交換等の他に、年間を通して追うべき課題の方向性を明らかにした。また、顔合わせを経たために、入学後の諸問題が生じた際に、保育園や幼稚園の力を借りることができた。

４　表１．府中市の架け橋期の一覧表（府中市の HP より抜粋）

表２R7 保幼小の情報共有の機会

時期	主な活動内容
新学期	スタートカリキュラム
５月	教員同士の交流会
５月	小学校の体育学習発表会
夏休み	小学校教員の保育参観
２学期	小学校の研究授業
秋	保育園・幼稚園の運動会
10 月	アプローチカリキュラム
11 月	小学校の展覧会
３学期	園児の小学校訪問　他

５　事例紹介と考察

（１）つなぐ事例（発達の段階を見通す）

①　各園・小学校共有の行事

◇学習発表会（音楽会）

昨年度の 11 月、近隣の２つの保育園の５歳児を音楽学習発表会のリハーサルに招いた。１年生は懐かしい保育園の友達や先生を前に、より張り切って演奏をすることができた。

画像 2. 保育園ごとに記念撮影

保育園のおたよりに掲載された記事

保育園便りから、5 歳児の様子を一部抜粋 　11 月中旬に、四谷小へ行き発表会のリハーサルを観ました。発表に圧倒されたり、世界観に入り込んだりと興味深く鑑賞していました。その日から、朝や帰りの会の歌や「♪あしたははれる」がいつもより丁寧で綺麗に歌えるようになりました。立ち姿も見ていたので、合唱・合奏の前後に微動だにせず立つ意識も強くなったように感じます。小学生への憧れが、これからどのような形で良い影響として広がっていくのか、期待しています。

②小学校教員の保育参観の感想

画像 3.
文字のおけいこ

◇給食担当の教員は、園児が給食を残さず完食していることに驚いた。保育士は、対話を通して量を加減し、少しでも食べるように仕向け、配られた分は食べきるように指導しており、残菜が驚くほど少なかった

◇音楽担当の教員は、小学校 1 年生がゼロスタートではないことに気付いた。保育園に望むことはなく、私達が変わらなければいけないと話した。

◇鉛筆の正しい持ち方のコツを、三点持ちと、輪が見えるように指導していた。

③新 1 年生保護者の意識を入学前からつなぐための行事

◇令和 7 年 1 月、土曜参観を利用したプレスクールに園児の保護者が 13 名参加した。

（ねらい）：在校生の授業参観の時間割の前に、１年生の４クラスの授業を公開した。親子、または保護者が入学前に 1 年生の学びと生活を知るための一助とした。

◇令和 7 年 2 月、給食試食会に園児の保護者が 25 名参加した。

（ねらい）：食は学校生活の大切な一部分である。保護者の関心も高い小学校の給食を、保護者が予め体験し、子供と共に小学校生活の始まりを楽しみに待てるようにした。

【考察】

①を通して保幼小の互いの行事について比較できた。②を通して全教職員が地域の幼児教育を体験し、幼児の実態とカリキュラムについて理解を深めた。③を通して、入学前に約 1/5 の保護者と対面できた。

（２）高める事例（スタートカリキュラムで保幼小を結ぶ／各学年間の教育を結ぶ）

表 3 は、1 年生の 2 週目の指導案である。黄色で示した“のびのびタイム”では、就学前の各園での遊びや身辺自立の活動を取り入れた。のびのびタイムは、桃色で示した安心・安全を目指す“なかよしタイム”共々、時間の経過と共に少なくなった。5 月に、のびのびタイムとなかよしタイムは、一旦 0 になったが、友達同士のかかわりが不安定になりがちな 2 学期当初はこれらを復活させる。

①表 3.　今年度　１年生２週目の週の指導案

２年生以上の学年も、安心・安全を合言葉にスタートカリキュラムに取り組んだ。学年目標の共有や自己紹介クイズ等のかかわる活動を通して、学年のつながりを深めようと意識しようとしていた。

朝	児童朝会		B時程		I年生を迎える会
学習	のびのびタイム（6年生と）	のびのびタイム（6年生と）	のびのびタイム（6年生と）	のびのびタイム（6年生と）	
I校時	国語 国語 国語	体育 体育 体育	国語 国語 国語	国語 国語 国語	行事 行事 行事
	おはなしききたいな	たのしくあそぼう	どうぞ　よろしく	こんなものみつけたよ	I年生をむかえる会
	読み聞かせ「おはなしききたいな」書写体操・鉛筆の持ち方・運筆の仕方・文字指導「つ…	体育館（きがえっこ）並びっこ競争　おにごっこ 整列の仕方	自己紹介をし、友だちの名前を覚える。学校生活での気付きを伝える。文字指導「し」対話	学校生活での気付きを伝える 表現　文字指導「う」	I年生を迎える会の目的を意識して、四谷小の仲間入りをすることを自覚し、所属感を高める。
2校時	体育 体育 体育	国語 国語 国語	算数 算数 算数	算数 算数 算数	算数 算数 算数
	たのしくあそぼう	かくことたのしいな	なかまづくりとかず	なかまづくりとかず	なかまづくりとかず
	校庭（きがえっこ）（ならびっこ）固定遊具の使い方を知り、約束を守って楽しく遊ぶ	鉛筆の持ち方・運筆の仕方・書写体操文字指導「く」	算数ブロックで数の形を作ろう ０～１０の数の意味，読み方，書き方，構成，順序，系列，大小がわかる。P12-13	数の形作り・数え歌 ０～１０の数の意味，読み方，書き方，構成，順序，系列，大小がわかる。P14-16	数え歌 ０～１０の数の意味，読み方，書き方，構成，順序，系列，大小がわかる。P15-17
中					
3校時	生活 生活 生活	算数 算数 算数	図工 図工 図工	生活 生活 生活	体育 体育 体育
	はじめましてがっこう	なかまづくりとかず	すきなものなあに	はじめましてがっこう	たのしくあそぼう
	友達いっぱい大作戦 ・「I年生こんにちは」学年で遊ぶ ・I年生を迎える会の練習をす…	かぞえっこ０～１０の数の意味，読み方，書き方，構成，順序，系列，大小がわかる。P10-11	友だちいっぱい大作戦 自分の好きなものを楽しんで描く。	学校たんけん大作戦 知っている事・知りたい事・見に行きたいところ・約束作り対話	校庭 固定遊具の使い方を知り、約束を守って楽しく遊ぶ。
4校時	音楽 音楽 音楽	道徳 道徳 道徳	図工 図工 図工	生活 生活 生活	国語 国語 国語
	友達と声を合わせて歌う	がっこうだいすき	すきなものなあに	給食がはじまるよ	かくことたのしいな
	伊藤先生　　音楽室 友達と一緒に体を動かしながら楽しく元気に歌う。表現	「道徳ってなぁに？」学校生活を楽しくする良さについて、自分事として考えている	つぼ糊の使い方 自分の絵を選んで貼る。	給食の約束・準備の仕方・白衣の着替え方・おぼんや食器の持ち方・片付け方・牛乳の開き方	鉛筆の持ち方・運筆の仕方・書写体操文字指導「　」
昼					

表 4, １年生 4～5 月スタートカリキュラム　（15 分間を１単位でカウント）

何週目 ＼ 内容目的	タイム名	１週	２週	３週	４週	５週	６週	７週	８週
保幼経験	のびのびタイム	14	16	10	10	0	0	0	0
安心・安全	なかよしタイム	15	9	4	1	0	0	0	0
成長・合科	わくわくタイム	15	28	43	45	24	33	38	30
自立・教科	ぐんぐんタイム	3	16	19	20	15	33	30	24

②＊1「架け橋期のカリキュラムマネジメント【国語】」１年生の事例

【就学前の５歳児】

◇かるた・すごろく・手紙ごっこ・ひらがな釣り・しりとりカード・もじかすぽん(ワーク)　絵本の読み聞かせ後の振り返り・絵のない本の読み聞かせをする。

◇さいころを使った表現遊びや言葉遊びをする。

◇ひらがなを日常から目に触れる保育環境（ロッカー・棚にカードを貼る）を作る。

◇ひらがなを読む体験として、小さなクラスに絵本の読み聞かせに行く。

【小学１年生への発展】

◇就学前の、話す・聞く・読む・書く学びの芽を生かして、ひらがな、かたかなに親しみ、読み書きをする。

◇就学前の、カードやさいころの遊びを通して文の構成を知り、話す・聞く・書く等の表現力を高めたり、内容の理解を深めたりする。

【考察】

保育園から提示された各教科のカリキュラムマネジメントがあったために、今年度当初のスタートカリキュラムと具体的な言語活動の実践につながった。12 月の１年生の公開授業は、国語科「どんなお話ができるかな」とし、２学期から準備が始まる。２年生以上の学年も、架け橋期のカリキュラムマネジメント【各教科】を参考にすることとした。

（３）支える事例

①表 5.今年度 5 月の保幼小の交流会の話し合いの総括

	園	小学校
遊び	・10 の姿に合わせた遊びの活動を発達段階に合わせて計画的に行う。 ・園の外に行くときに目的を伝え、見通しをもたせる。	・学習を遊びに近い形にし,取り組む。 ・自由度が高すぎないような場を設定し、安心感を高める。 ・遊びに工夫を付け加えて、みんなで楽しめるものにする。
アンガーマネージメント	・小学校で取り組んでいる指差しカードを活用してみる。 ・クールダウンの方法を試し、小学校に伝える。	・園のクールダウンの方法を取り入れる。（リソースルームなど）。 ・園からの情報を基にクールダウンの方法などを試す。
特別支援教育	・家庭に集団の中での姿を伝え、必要があれば専門機関を紹介する。 ・入学前の聞き取りや、入学後の交流時に情報交換をする。 ・「かけはしシート」を保護者に勧める。	・就学時健診等では集団で見取る。 ・園の支援の情報を基に、小学校の支援を考える。 ・「かけはしシート」を基に保護者と入学前や入学後すぐに面談をして、支援方法を相談していく。
性に関する内容	・発達段階に合わせた言葉で、プライベートゾーンや他者との適切な距離感について伝えていく。 ・自分と同じように相手も大切なことを伝える。 ・その人らしさを認める言葉かけをする。	・水着で隠れる所は、教員、保護者を含め、他者から触られたら相談するように伝える。また他者のプライベートゾーンも触らない指導をする。 ・着替えの場を分ける。 ・見られにくい着替え方を教える。 ・友達との適切な距離感、言葉遣いなどについて指導する。 ・自分と同じように相手も大切なことを伝える。

②校内委員会に保育士を招く。③保育園の療育の研修会に、小学校の教員が参加する。

【考察】

①②③より、支援が必要な児童への声かけと対応について助言をいただく。保育園の療育をつなげる工夫と、入学時のかけはしシートの活用について情報を共有した。

６　まとめ

（１）研究を通して分かったこと

各園・小学校の当たり前が、他方から見て驚き感心する場合があり、各々の教育の価値を再確認できた。１年生の担任は、スタートカリキュラムを行い、遊びの時間を取り入れたことで余裕が生まれ、登校渋り等で昇降口まで迎えに行くことが減ったと話した。小学校の教員と各園の職員が、子供の幸せのために、互いの現場に出向き、小１プロブレムの問題に対し、共に向き合い歩み寄り対話する姿が、架け橋期の教育に必要であると深く認識する機会となった。

（２）今後の課題

スタンダードとなるカリキュラムマネジメントを作成・実践し、汎用化を図ること。そのために記録を取り、学びと育ちを可視化することが必要である。

【共同研究者】第２府中保育園園長　　　　　目時　寿美子
府中市立四谷小学校研究主任　高橋　亜紀